

孕



はらませゲーむっ!





「痛い!! ああああぁぁぁ!!」

「ああ、処女膜破るこの感覚の
最っ高だわ」

「や、やめっつ、あうっっ!!
な、なんでっ!! こんなっっ!!」

ズン

ズン

ズン

ズンズン



「はあっはあっ、夢にまで見た
青葉ちゃんの生マン最高っ!」

「あっ、はっ、うあっ!!
や、やめっっ、だっ誰かっっ
あああっ!!」

「ぐふっw呼んでも誰も助けに
こないと思うよ?
どうせ今頃ひふみさんとかもw」
「そっそんなっっ」

キキキ!

キキキ!

キキキ!

キキキ!

キキキ!
キキキ!



「ふう〜めっちゃ出たわ〜」
「う…あ…熱…ほ…ほんとに
な…中に…あ…ああ…」
「そんなにしよげないですよ
次は青葉ちゃんも気持ち良く
してあげるからさw
俺いいモン持ってたよわ〜」
「…え…」

Y/N

お..

お..

お..

Y/N

Y/N

Y/N

Y/N



「な…何…これ…っ！
あ…熱…つくて…頭が…っ
あああああっ！」

「単なる媚薬みたいなモンだよw
これで青葉ちゃんも生セックスを
楽しめるわっ」

「や、やめっ…！…そ…それっ
動かさないで…っ、あああああっ！」

お女！

お女！

お女！

お女！

お女！



「出る出るっ、また出るよっー」

「だ、だめっーだめだめっーい、今出されたらっーっ」

「っーっーっー」

「いやあっーや、やだやだっーこ、こんなっ、こんなのっーっくるっ、またきちゃっっーああああああっっ」

ズンズン

ズンズン

ズン

ズンズンズンズン

ズンズン



「憧れのひふみさんの
オマン」いただきますっー」
「あーっ、あーっー」
「これって、ひふみさんって
処女だったのか、しかも
相手は俺……やっへめっちゃ
嬉しいっ」



「あはあはあ、ひふみさんっ」

「はあはあ、ひふみさんっ
どどどですかつ、俺っ
上手く出来てますかつ」

「そ、そんなのっ
し、知らなかつ」

びしょ!

びしょ!

ちゅ

ちゅ

ちゅ

ちゅ

ちゅ

ちゅ



「はあっ、はあっ、やっべっ…
中出してごんなじっ…」
「…あ…は…ああ…っ…」
「お…俺、まだ足りないっ…
っぽいですっ…」
「○○○○○」



「はっ……あっ……はっ……」
「ひふみさん声出てる……
無理矢理されて感じるって
とんだMじゃないですか……」
「……ち……違……っ、これは……
……あっ、はっ、あああっ……」



「あぁ〜イクイク〜セン
うっうっうっ〜」
「~~~~~」
「ひふみさんもっとうっ
もっとうっイキ顔見せてっ
うっうっうっ〜」
「まっ。。。。まだ。。。。田。。。。っ
~~~~~」



「ぐっwwねねうちの処女マン  
いただきま〜すっ」

「~~~~~」

「うっ、流石にきつっ...  
この体格で初物とか...  
メツチや興奮してきたw」

「や、やだ... た... 助け...  
うううううううううううう」

バクッ!

キッ

キッ

キッ

バクッ!

キッ

キッ









「あ……あ……」  
「ふう、やっぱりパンツからの  
種付けはたまらんわ」  
「も……も……」  
「は……は……離……」  
「は……や……」  
「……」

あ……

あ……

SM

SM

SM

SM

SM



「あっ、はっ、うっっ!」  
「単なる媚薬だからw」  
「ほらほらっ、おじさんのオテンポ気持ちいいわえっ?」  
「こんなの...」  
「気持ちいいわけ...」  
「あああああっっ!」

アッ!

キキキ

キキキ

キキキ

はっ!

はっ!

は

はっ!



「ほらほら、10発目  
イクよーっっっっっ」  
「あゝ気持ちええっww  
強制中出しサイヨww」  
「あおちち私もお  
だめかもっ」

!!  
!!  
!!

んんんん

んんんん

んんんん

!!  
!!  
!!



「~~~~~」  
「くさくさの感じ…  
だったんさん処女  
だったんすね〜w」  
「おっ…おっ…私…」

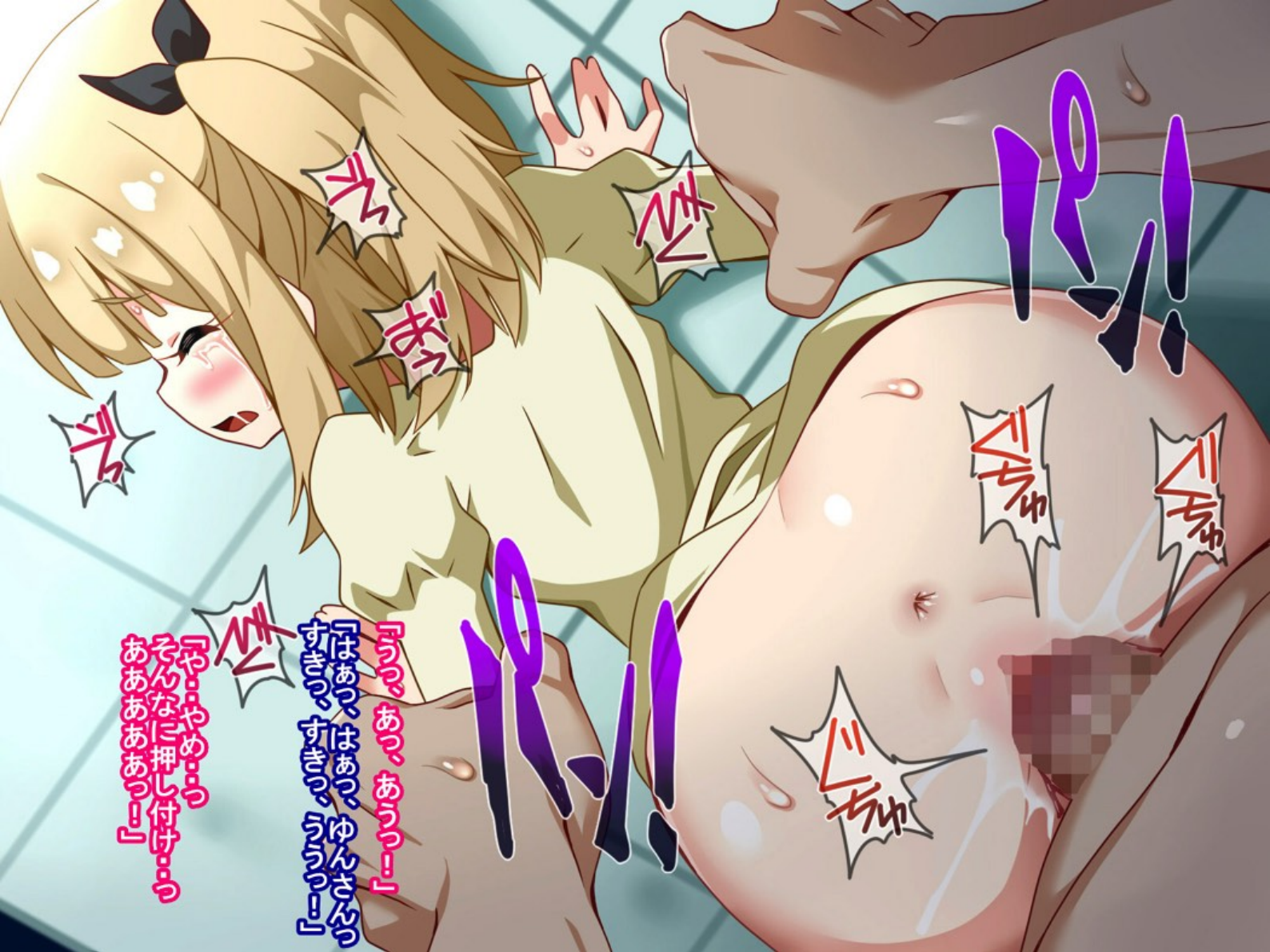
バキッ!

バキッ!

バキッ!

バキッ!

バキッ!



「や・やめ・っ  
そんなに押し付け・っ  
ああああっ！」

「うっ、あっ、あっっー」  
「はあっ、はあっ、ゆんさんっ  
すきっ、すきっ、ううっー」

RR!!

RR!!

ニャ  
ニャ

ニャ  
ニャ

ニャ  
ニャ



「ゆんさん俺ももっつっ」  
「嘘っ」  
「駄目っそれだけはっ」  
「んんんんん」  
「んんんんん」



「ゆんさん、俺…  
ゆんさんをもちと  
気持ち良くしたいっ  
」  
「…な…何…言っ…」

ヤ

「はあっ、はあっ、はあっ」  
「う…嘘…やる…」  
「なんなん…これ…っ」

ヤ  
ン

ヤ

ヤ

ヤ

ヤ



「あっ、はっ、ああっ！  
なっ、何やっこれえっ！」  
「単なる媚薬ですから  
ゆんさんは何も気にせず  
気持ち良くなってください  
うっ、ぬんっ！」  
「ああああああっ♡」





「まっまた出る  
んんんんんんんん」  
「~~~~~」  
「はあっはあっ  
ゆんさんっ、ゆんさんっ」  
「まっまた出るっ  
あかんっもっ頭真っ白っ」

んん

んんんんんんんん

んんんんんんんん

んんんんんんんん

んんんんんんんん

んんんんんんんん



「あっ、はっ、ああっ!! はっはっはっ!!」

「ゴメン青葉ちゃんっ 久々だから我慢 出来なくてっ 腰っ止まらなっ!!」

「だ、大丈夫っ、 ですからっ、我慢っ しないでっ、あっっ!!」



びん びん びん  
びん びん びん  
びん びん びん

びん!  
びん!

びん!  
びん!  
びん!

びん!  
びん!

びん!  
びん!

びん!

びん!  
びん!

びん  
びん  
びん

びん びん びん  
びん びん びん  
びん びん びん

びん びん びん

びん びん びん  
びん びん びん  
びん びん びん



「あ…は…ああ…っ  
奥まで…ごんな…♡」  
「青葉ちゃんゴメン…  
一回だけなんて無理だ…  
延長…いいかな？」  
「…おら♡」





「あーっ、はーっ、あーっ  
こゝんなーっ  
感じーっ」  
「ああ、いい感じっ  
流石ひふみさん！  
うっ、ふうっ」  
「良かったっ♡  
じゃあこのまま  
頑張るっ、ねっ」

あーっ!!

あーっ!!

あーっ!!

あーっ!!

あ

あ

あ



「おっぱい全部」

「おっぱい全部」

「おっぱい全部」

「おっぱい全部」

「M」

「M」

「M」

「M」

「M」

「M」

「M」



「あはああ」

「ぐっぐめっぢゃ  
出たわ」

「まだ硬いままだけ」

大丈夫」

「えっっん」

「それじゃあ」

「延長しようかな」

「んん」

んん

んんん

んんん

んんん

んんん

んん

んん

んん

んん

んん





「ひふみさんっ  
俺もう無理っっ」

「大丈夫っっ  
ほらっ、またっ出たっ」

「か、勘弁してくださいっ  
噴水みたいな勢いの  
いい子いい子♡  
全部出しちゃおうね♡」

んっ  
んっ

んっ  
んっ

んっ  
んっ

んっ  
んっ

んっ  
んっ

んっ  
んっ

んっ  
んっ

んっ  
んっ





「早速出るぞっ  
ぐわっ」  
「~~~~~」  
「まだ。。まだっ」  
「なに。。これ。。  
こんなの。。っ  
入りきらな。。っ  
ああああああっ」



「あ…は…あ…ああ…  
す……かったあ…♡」  
「おいおいまだ休む  
には早すぎでしょう  
当然延長だからね？」  
「…わ…わかつてるよ…」



「ほれっまた出るぞっ」  
「む、無理っ、もう  
せし入らなっ」  
「ほれっ、イけっ！  
中出しされてイけっ！」  
「や、やだやだっ  
こっ、こんなのっ  
っっっっっっっっっっっっ」



「あつ、はっ、ああつ!!」  
「はあつ、はあつ!!  
ポテ腹ゆんちゃんも  
可愛いよっ」  
「あ..あほ...っ  
な、何ゆいで...  
あああああっ!」

あつ!!

あつ!!

あつ!!

あつ!!

あつ!!









「ま、また出るっ」

「ええよっ、全部っ全部出してっ」

「んんんんん」

「き、きた、熱いのきた、また、こんなにたくさんっ、こんなの、も、もう、っ」